

## 損益計算書

	2009年度実績		2008年度実績			
	連結	単体	連結		単体	
(単位:億円)				増減		増減
<b>売上高</b>	<b>21,090</b>	11,188	<b>33,316</b>	▲ 12,225	16,605	▲ 5,417
総利益 (総利益率)	<b>978</b> (4.6%)	271 (2.4%)	<b>1,502</b> (4.5%)	▲ 524	407 (2.4%)	▲ 136
営業費	▲ 827	▲ 256	▲ 994	167	▲ 275	20
貸倒費用	▲ 0		▲ 43	42	▲ 9	9
暖簾償却	▲ 6		▲ 11	5		
<b>営業利益</b>	<b>144</b>	15	<b>453</b>	▲ 309	123	▲ 107
受取利息	7	10	12	▲ 5	16	▲ 6
支払利息	▲ 36	▲ 13	▲ 68	32	▲ 26	13
利息収支	▲ 29	▲ 3	▲ 56	27	▲ 10	7
受取配当金	20	122	26	▲ 6	101	22
その他営業外収益	35	3	39	▲ 3	11	▲ 8
その他営業外費用	▲ 16	▲ 6	▲ 40	24	▲ 27	21
持分法利益	▲ 15		62	▲ 77		
<b>経常利益</b>	<b>139</b>	131	<b>484</b>	▲ 345	197	▲ 65
特別利益	128	26	33	94	15	12
特別損失	▲ 44	▲ 28	▲ 96	52	▲ 81	53
<b>税引前利益</b>	<b>222</b>	129	<b>421</b>	▲ 199	130	▲ 0
法人税等	▲ 110	▲ 14	▲ 188	79	▲ 30	16
少数株主利益	▲ 8		▲ 27	19		
<b>当期純利益</b>	<b>105</b>	116	<b>206</b>	▲ 102	100	16

## 基礎収益

120

528

▲ 407

基礎収益=営業利益(貸倒費用を除く)+利息収支+受取配当金+持分法による投資損益

## 連結貸借対照表

	2010年3月末		2010年3月末		
	2009年3月末比		2009年3月末比		
<b>流動資産</b>	7,295	▲ 854	<b>流動負債</b>	5,762	▲ 1,045
現金及び預金	431	25	取引債務	3,328	▲ 40
取引債権	5,374	▲ 171	短期借入金	2,153	▲ 951
棚卸資産	1,248	▲ 711	その他の流動負債	280	▲ 54
その他の流動資産	242	2	<b>固定負債</b>	1,208	214
<b>固定資産</b>	2,656	221	長期借入金	946	138
有形・無形固定資産	1,175	▲ 59	その他の固定負債	262	76
投資その他の資産	1,481	280	<b>負債合計</b>	<b>6,970</b>	<b>▲ 832</b>
			資本金・資本剰余金	1,500	0
			利益剰余金	1,040	12
			評価・換算差額等	97	168
			(少数株主持分を除く純資産計)	2,637	180
			少数株主持分	343	19
			<b>純資産合計</b>	<b>2,980</b>	<b>199</b>
<b>資産合計</b>	<b>9,951</b>	<b>▲ 633</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>9,951</b>	<b>▲ 633</b>

## 連結対象会社数

	子会社	関連会社	連結対象計
事業投資先	90(▲14)	50(▲3)	140(▲17)
国内・海外法人	19(±0)		19(±0)
<b>合計</b>	<b>109(▲14)</b>	<b>50(▲3)</b>	<b>159(▲17)</b>

・括弧内は前年度末からの増減  
・孫会社を除く連結対象子会社は77社

## 連結財務指標

	2010年3月末	2009年3月末
株主資本比率	26.5%	23.2%
D/E レシオ	1.04	1.41

・株主資本比率  
=少数株主持分を除く純資産÷総資産  
・D/E レシオ  
=(短期借入金+長期借入金)÷純資産

## 2009年度 連結決算の概要

## 【事業環境】

世界同時不況下でスタートした世界経済は、各国が打ち出した金融緩和や景気対策を受け最悪期を脱し、緩やかな回復局面へと向かった。特に新興国では中国・インドを中心に内需が好調に推移し世界経済の回復を牽引したが、一方で先進国は景気対策効果が限定的であったこと、また雇用情勢の悪化による消費低迷もあり依然として本格的な回復にまでは至っていない。わが国の経済は、新興国向けを中心とした輸出の回復によって持ち直しつつあるものの、厳しい雇用情勢による消費低迷とデフレ進行などにより回復基調は力強さを欠くものとなっている。こうした状況下、鉄鋼製品の需要は、新興国を中心とした強さも見られるものの、国内においては依然不透明な状況が続いており、世界全体では国・地域や産業によって回復の基調も異なる動きを見せている。

## 【業績】

上期は世界同時不況によって大きく減速した需要の回復スピードが遅く低調に推移したが、下期に入ってから中国・アジアを中心とした需要に支えられ、また国内では自動車・家電等の製造業の減産緩和の動きから、徐々に業績が回復し売上・収益ともに増収増益基調に転じることとなった。この結果、当社の当年度業績は、売上高2兆1,090億円、経常利益139億円、当期純利益105億円となった。

## &lt;主な項目の状況&gt;

## 1. 売上高、総利益

下期には回復基調に転じたものの、上期の大幅な落ち込みが大きく、売上高は前年度を1兆2,225億円下回る2兆1,090億円、総利益は前年度を524億円下回り978億円となった。

## 2. 営業費

人件費を中心とした経費削減や事業会社の稼働率低下に伴う変動費減少などによって営業費は前年度から167億円負担減の827億円となった。

## 3. 特別損益

特別利益は、上場有価証券の売却等により128億円となった。  
特別損失は、固定資産の減損や株式の評価損等によって44億円となった。

## 4. 取引種類別・対面業種別売上高

売上高を取引種類別に見ますと、国内が1兆5,271億円(全体の72%)、海外が2,974億円(同14%)、輸出が2,733億円(同13%)となった。また対面業種別には、自動車、建設、及び流通業界向けで50%を超え、これに造船、電機業界向けが続いている。

## 【財政状態(2010年3月末)】

## 1. 総資産、株主資本

売上高の減少によって取引債権及び棚卸資産が減少したことから、総資産は前年度末(2009年3月末)から633億円減少し9,951億円となった。この内、流動資産が約7割を占めており、前年度に引続き流動性の高い財務構造を維持している。また、少数株主持分を除く純資産は、有価証券評価差額金の増加などによって、前年度末比180億円増加し2,637億円となり、株主資本比率は26.5%と高い水準にあり財務の健全性を維持している。

## 2. 有利子負債

売上高の減少による取引債権債務の減少などにより、有利子負債残高は前年度末に比べ813億円減少し3,100億円となった。

## 【関係会社の状況】

南米最大級の高炉メーカーであるブラジルのUSIMINAS社が当年度に同社傘下のサービスセンターを統合して設立したSolutions Usiminas社に出資参画し、今後更なる経済成長が期待されるブラジルでの事業展開を進めていくこととした。

## 2010年度 連結業績見通し

鉄鋼原料価格の値決め方式が、資源会社より鉄鋼メーカーへの要請により、年1回から四半期毎への変更が行われようとしており、それに伴い鉄鋼メーカーから需要家への国内販売価格の決まり方も変わろうとしている最中であり、流通を担う商社としても価格の先行きを予測することは困難な状況でもある。従って、状況がある程度落ち着いたところで見通し数字を策定することとしている。